

令和5年度

「運営に関する計画・自己評価」

最終評価



小中一貫校大池学園  
大阪市立大池中学校

令和6年3月

大阪市立大池中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和3年度、生野区西部地域学校再編整備計画により、第1次再編として、校区の中川小学校と御幸森小学校が統廃合され、大池小学校が誕生した。そして令和4年度には第2次再編として、大池小学校に舍利寺小学校の一部の児童が加わり、大阪市初の連携型小中一貫教育を推進する『小中一貫校大池学園』として統合された。

組織編成から始まり、合同研修会や研究授業、授業参観などの教職員の交流、および児童生徒の交流など、大池小学校との連携を深め教育目標達成に努めている。また、ユネスコスクールの認定を目指し、教育内容の精選や取組の意義を整理し、実践しているところである。

学力・体力面において、前年度チャレンジテストの国語・数学では、標準化得点は3年生の国語が2ポイント減少したが、2年生は国語が5ポイント、数学は19ポイント向上し取り組みの成果が見られた。校内調査における話し合い活動は、53.6ポイントと全市目標（50ポイント）を上回っている。

また、学校評価アンケートでの「学校の授業の予習や復習をしている」の肯定的回答は生徒45%・保護者47%と向上しており、引き続き自習室の整備と、その活用の啓発に努め、自学自習を行う生徒の増加に取り組む。前年度は英検を受検することにより学習意欲の高まりがみられ今後も継続指導を行いつつ、小学校とも連携を行い課題を精査し、学力向上への取り組みを推進する。

全国体力調査での体力総合点では、男子は38.3(R3:33.00)、女子は37.8(R3:41.60)と、前年度より男子の向上は見られるものの、これまでの体力面を考えると全体的に下回ってきている。体力・運動能力においては、部活動との関連も深く、生徒の基本的な生活習慣の安定化に大きく影響している。部活動参加生徒に対するプレイヤーズファーストについて教員の意識も高まり、今後の部活動の在り方や目的を円滑に考えながら体力・運動能力の維持・向上に努めていきたい。

安心して成長できる安全な学校の実現に向け、日常的にいじめの認知に努めることに重点を置き、いじめが確認されると、複数体制で丁寧に取り組み、解消が確認されるまで継続的に指導・見守りに努めている。また、家庭との連携により規範意識の醸成に継続して取り組んでいく。前年度は暴力行為の発生は見られず、ほぼすべての生徒が安心して学校生活を送れているが、不登校については、昨年度よりも在籍比率が増加(8.0→8.4%)してきており個別指導を継続しつつ、前年度に一定の成果があったこともサポートネットによる外部機関との連携を今後も進めていく。

安心して通学できる学校を目指し、引き続き芸術鑑賞会の開催など豊かな心の醸成につながる取り組みを継続させつつ、教職員一丸となった取り組みを推進する。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を95%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を95%にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思うか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を95%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を95%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における〔国語〕の問題において、「書く」の領域の正答率を令和4年度と比較して5ポイント向上させる。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における〔数学〕の問題において、「数と式」の領域の正答率を令和4年度と比較して5ポイント向上させる。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の予習をしていますか」「家で学校の復習をしていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合をそれぞれ55%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、65%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に普段（月～金曜日）、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか」の項目において「全くしない」と答える生徒の割合を、10%以下にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度までに、授業日において学習者端末を毎日使用した割合（学校行事等でICT活用に適しない日を除く）を100%にする。

### 【その他】

- 令和7年度までに、小中一貫校大池学園として、小学校と連携してユネスコスクール認定を目指す。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標（中学校）

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 80%以上にする。

→ 65.7%

○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

→ 8.3%(昨年 8.4%)

○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

→ 25.0%(昨年 22.7%)

#### 学校園の年度目標

○校内調査において、保護者向けアンケート「学校は、生命を大切にする心を育み、いじめや暴力を許さない学校づくりに取り組んでいる」の項目で肯定的に答える保護者の割合を 85%以上にする。

→ 79.3%

○校内調査において、生徒向けアンケート「自分には、良いところがありますか」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上にする。

→ 88.7%

○校内調査において、生徒向けアンケート「命の大切さや社会のルールについて学んでいる」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。

→ 95.3%

○人格形成の基礎を培うため、感性や創造力、自己を表現する力を育む情操教育を推進するため、文化・芸術週間で芸術鑑賞を実施し、直接文化・芸術に触れ、素晴らしさを体験させる。また、合唱コンクールを行い、音楽を通じて子どもたちの表現力や情操を豊かにする。  
※芸術鑑賞…感染拡大防止休業措置のため実施できなかった。

→ 合唱コンクール 10/27 文楽鑑賞(2年)6/21 歌舞伎鑑賞(3年)7/7 などを実施

○連携型小中一貫校として、円滑な接続を実現するために、生徒と児童の交流を行い、系統的な実践を推進する。

→ 体育大会 6/9、部活動体験 6/22、教員研修交流 8/31、合唱コンクール交流 10/27、  
体験入学 11/16、学年交流(3回)、児童部活動入部、PTA 交流、などを実施

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（中学校）

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。

→ 47.3%

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。

→ 3 年…国語+3 ポイント、数学-8 ポイント。2 年…国語-2 ポイント、数学+3 ポイント。

○大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 40% 以上にする。

→ 58.8%

○年度末の校内調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 55% 以上にする。

→ 53.8%

#### 学校園の年度目標

○自学自習の学習習慣の確立を図るため、校内の学習環境整備やすきま学習の啓発に努め、オールタイムで個々の状況に対応できる自習室の活用を推進する。

→ 常時活用可能

○英語教育について、英検 (実用英語技能検定) を実施し、個々の昇級目標を明確にすることでの動機づけを行い、英語力を起点に学習意欲を高め、学力全体の向上に取り組む。

→ 9/29、1/12 実施

○連携型小中一貫校としてのカリキュラム作成を進めるとともに、ユネスコ会議の開催や教職員研修を踏まえ、ユネスコスクール認定に向けた学びの一貫性を目指す。

→ 8/31 教員ユネスコ研修、1/21 ユネスコ本部会議研修参加等

#### 【学びを支える教育環境の充実】

##### 全市共通目標 (中学校)

○協働学習支援ツールを用いた学習を週 2 回実施する。

→ NAVIMA、コグトレ(オンライン)を実施

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 (月 45 時間以下) を満たす教員の割合を 75% 以上にする。

→ 基準 1…53.3% (基準 2…73.3%)

##### 学校園の年度目標

○授業日において学習者端末を毎日使用した割合 (学校行事等で ICT 活用に適しない日を除く) を 95% にする。

→ 100%

#### 【その他】

##### 学校園の年度目標

○小中一貫校大池学園として、ユネスコスクールの申請に向けて、多文化共生教育、平和教育、環境教育について小学校と連携し、教育課程の整備を進める。

→ 小中一貫校としてユネスコスクール認定を申請

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【安全・安心な教育の推進】

一定目標数値に達しており、安全への取り組みの効果が表れていると判断できる。

人権教育の推進に、全教職員により「いじめはいつ起こってもおかしくない」を前提に早期発見に努めるとともに、生じた事案についてはいじめ対策委員会にて検討を行い早期解決が図れるよう複数の教員で組織的に取り組んだ。

生徒への学校規則の遵守や規範意識向上にも取り組み、生徒アンケートによる「命の大切さや社会のルールを守っている」の割合は95.3%と高く、自尊感情や生命を大切にする心の醸成がみられる。

インフルエンザの流行が、学年単位で時期を変えて発生しており、安全優先のために芸術鑑賞会の実施を見送ったが、学年単位で様々な芸術的、伝統芸能や演芸に接するよう取り組み、一定の教育効果は確認できた。

また、感染症対策の重要性について生徒、保護者および全教職員が認識できた。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標に関して、チャレンジテストの国語・数学については、経年比較により、標準化得点は3年生の国語が12.3ポイント、数学が2.8ポイント向上した。

校内調査における話し合い活動についての肯定的回答は、86.4ポイントとなっており改善がみられる。

全国体力調査の項目では、体力総合点で、男子は36.3（R4: 43.1・R3: 33.9）、女子は48.6（R4: 40.7・R3: 47.0）となり、女子は大きく向上した。

学校の年度目標に関して、学校評価アンケートの「学校の授業の予習や復習をしている」は生徒46.9%・保護者43.5%となり、昨年度（生徒45%・保護者47%）とほぼ同数となっている。また、英検を受検することにより学習意欲が高まった割合は60.0%（昨年度59.5%）と、目標を達成できた。今後、小学校との連携をさらに推進し、課題を精査しつつ、学力向上に努めたい。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

教職員の働き方について、平日の勤務時間の超過は大きく減少したが、部活動指導時間は、春季秋季総合体育大会や、総合文化祭やコンクールなど、公式試合や発表会に向けた練習に土日休日の時間が費やされており、職務への意欲との均衡が課題になっている。

ICT機器の活用が進み、教材作成や情報周知等での負担軽減は図られてきている。

## 大阪市立大池中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>全市共通目標(中学校)</b></p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。</p> <p><b>→ 65.7%</b></p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p><b>→ 8.3%(昨年 8.4%)</b></p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p><b>→ 33.3%(昨年 5.8%)</b></p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○昨年度に引き続き、生命を大切にする心を育み、いじめや暴力を許さない学校づくりに取り組む。</p> <p>○昨年度に引き続き、社会のルールを守る規範意識や基本的生活習慣が身につく、社会のルールについて学ぶ取り組みを推進する。</p> <p>○昨年度に引き続き、人格形成の基礎を培うため、感性や創造力、自己を表現する力を育む情操教育を推進するため、文化・芸術週間において、芸術鑑賞で直接に文化・芸術に触れ、素晴らしさを体験させる。</p> <p>○本年度開校の連携型小中一貫校として、円滑な接続を実現するために、小学校教員と交流を行い、より一層の連携を推進する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>『いじめを考える日』の全校集会において、いじめについての校長講話を行い、それをふまえて、各学年・各クラスでいじめについて考える取り組みを実施する。常に学校全体でいじめの未然防止・早期解決について取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>インターネット上でのいじめの防止について、SNSのかかわりやネット依存について保護者・生徒向けのSNS啓発講演会や学校・家庭と連携していじめについて考える機会を持つ。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>校内調査において、保護者向けアンケート「学校は、生命を大切にする心を育み、いじめや暴力を許さない学校づくりに取り組んでいる」の項目で肯定的に回答する保護者の割合を90%以上にする。</p>	C

取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 『人権教育年間計画』『道徳年間学習計画』に則り、継続したと取り組みとすることで、互いに違いを認め合い、互いを尊重し支え合う集団作りに努める。	C
指標 校内調査において、保護者向けアンケート「学校は、社会のルールを守る規範意識や基本的生活習慣が身につくように指導している」の項目で肯定的に回答する保護者の割合を90%以上にする。	
取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 連携型小中一貫校開校のため、小学校教員との交流を促進し、円滑な接続を実現するため安心して登校できる環境を作る。	A
指標 小中学校の子ども交流を年間6回実施し、9年間を見通した教育実践を実施する。	
取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 芸術鑑賞を実施し、文化・芸術の直接の体験を通して芸術の素晴らしさを感じとることで生徒の情操を培う。	B
指標 校内調査において、生徒向けアンケート「芸術鑑賞で、文化・芸術の素晴らしさを感じることができた。」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①校内調査において認知したいじめについて、100%の事案について解消に努めている。 ②保護者アンケート「学校は、生命を大切にする心を育み、いじめや暴力を許さない学校づくりに取り組んでいる」への肯定的回答の割合は79.3%だった。 ③保護者アンケート「学校は、社会のルールを守る規範意識や基本的生活習慣が身につくように指導している」への肯定的回答の割合を84.8%だった。 ④小中の子ども交流を6/9 体育大会、6/22 部活動体験、8/31 教員研修交流、10/27 合唱コンクール、11/16 体験入学、兄弟学年交流(3回)、児童部活動入部など10回以上行った。 ⑤「合唱コンクールや展示発表をすることで表現力がついたり、感動したりすることができましたか。」への肯定的回答の割合は87.6%だった。	
次年度への改善点	
・「人を大切にする心の醸成」をアピールし、人権尊重の精神を養う教育を推進し「共に学び、共に助け、共に高め合う」なかまづくりに取り組み、生命を大切にするという全市共通目標及び年度目標は達成できている。また、不登校やいじめを生まない集団育成について、安全で安心な環境が進みつつある。今後も保護者及び関係機関との連携を行いながら生徒の個々の状況に丁寧に対応していく。 ・施設連携型小中一貫校であり、とりわけ教職員連携は重要である。担当者間の定期的な会議の実施とともに、児童生徒の交流をさらに進め、小中一貫した教育カリキュラムの完成に努めていく。 ・本年度は感染症拡大防止のため、全校生徒の芸術鑑賞を中止した。表現力を高めたり鑑賞活動を通して情操をはぐくむ取り組みを工夫して実施していく。	



年度目標	進捗状況
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>全市共通目標（中学校）</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。</p> <p>→ <b>47.3%（肯定的 86.4%）</b></p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。</p> <p>→ <b>3年生（国語 0.96・数学 0.90）</b>（昨年、国語 0.93・数学 0.98）</p> <p>→ <b>2年生（国語 0.86・数学 0.83）</b>（昨年、国語 0.88・数学 0.80）</p> <p>○大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 40%以上にする。</p> <p>→ <b>58.8%</b></p> <p>○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 55%以上にする。</p> <p>→ <b>53.8%</b></p> <p>学校の年度目標</p> <p>○自学自習の習慣の確立を図るため、校内の学習環境整備やすきま学習の啓発に努め、オールタイムで個々の状況に対応できる自習室の活用を推進を行う。</p> <p>○英語教育について、英検（実用英語技能検定）を実施し、個々の昇級目標を明確にすることでの動機づけを行い、英語力を起点に学習意欲を高め、学力全体の向上に取り組む。</p> <p>○連携型小中一貫校として、カリキュラムを作成し、学びの一貫性を目指す。</p>	B


年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑥【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>授業研究や校内研修において『1. ICT 活用』・『2. アクティブラーニング』・『3. めあて・まとめの提示』と定め、全教員が研究授業を行い、授業改善に努める。</p>	B
<p>指標</p> <p>校内調査における生徒向けアンケート「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」の項目で、肯定的に回答する生徒の割合を、84%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑦【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>連携型小中一貫校として、9 年間を見越した教育課程を検討し、学びの一貫性を目指す。</p>	B

指標	単元配列表を小中学校それぞれ作成し、相互授業参観や研究授業に参加し、小学校で必要な箇所の出前授業を実施する。	
取組内容⑧【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】	校内第 5 回実力テストに代わる共通到達度確認問題テストを実施し、個別の学力到達度を図り個別の課題を詳細に把握することにより学力全体の底上げを図る。	B
指標	中学 3 年生の自己実現に向けた意欲を高め、生徒向けアンケート「将来の夢や目標を持っている」の項目で肯定的に答える生徒の割合 73%以上にする。	
取組内容⑨【基本的な方向 5 健やかな体の育成】	体力・運動能力が高まるよう体育の授業や泊を伴う校外行事等の学校行事を精選し、安全への配慮を踏まえた指導内容に工夫をし、体力合計点を向上させる。	B
指標	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点において、男女とも一昨年度の平均値より減少したので、前年度合計点（男子 43.1 点、女子 40.7 点）より増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
⑥生徒向けアンケート「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」の肯定的回答の割合は 86.4%であった。		
⑦単元配列表を小中学校それぞれ作成し、相互授業参観や研究授業への参加を相互に行った。		
⑧生徒向けアンケート「将来の夢や目標を持っている」での肯定的割合は 73%であった。		
⑨今年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点は、男子 36.3 点、女子 48.6 点となり、女子は多くの項目で改善が見られ男子に課題が残った。		
次年度への改善点		
・相互授業参観では、「主体的・対話的で深い学び」につながる方法や ICT を積極的に活用するなど工夫して実施し、一定の効果が見られており、継続して取り組んでいく。自習室の活用を進め、家庭学習・自主学習習慣の定着にさらに結び付けていきたい。		
・英検の全校生徒悉皆受験により、目標達成感を体験させ学習意欲の向上を図りつつ自己肯定感につなげていく。		
・学年ごとに、学力・体力の違いはあるものの、個々の生徒理解に努め、取り組みの改善など子に応じた指導方法を工夫しつつ、さらに小学校との連携を交えながら、バランスよく体力が向上するよう取り組んでいく。		

年度目標	進捗状況
<p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>全市共通目標（中学校）</p> <p>○協働学習支援ツールを用いた学習を週2回実施する。</p> <p>→ <b>NAVIMA、コグトレ(オンライン)を実施</b></p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を75%以上にする。</p> <p>→ <b>基準1…53.3%（基準2…73.3%）</b></p> <p>学校の年度目標</p> <p>○授業日において学習者端末を毎日使用した割合（学校行事等でICT活用に適しない日を除く）を90%にする。</p> <p>→ <b>100%</b></p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑩【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>自学自習の習慣の確立を図るため、校内の学習環境整備やすきま学習の啓発に努め、オールタイムで個々の状況に対応できる自習室の活用を推進を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>校内調査において、生徒向けアンケート「自習室で自分のペースで自学自習している」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を40%以上にする。</p>	A
<p>取組内容⑪【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>1人1台端末の環境を生かし、個別最適な学び協働的な学びの実現に向けた取組の実施を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>授業日において学習者端末を毎日使用した割合（学校行事等でICT活用に適しない日を除く）を90%にする。</p>	B
<p>取組内容⑫【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>「学校における働き方改革推進プラン」に基づく各取組の効果検証。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>ゆとりの日を設定し、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を75%以上にする。</p>	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>⑩生徒向けアンケート「自習室で自分のペースで自学自習している」の肯定的回答の割合は 53.8%であった。</p> <p>⑪授業日に学習者端末を毎日使用した割合は 100 %であった。</p> <p>⑫「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合の二学期の平均は 70.0%であった。(1 学期は 65%)</p>	
次年度への改善点	
<p>学習者端末の家庭での使い方や相談機能の利用など、さらなる活用を拡充していく必要がある。教職員の勤務負担軽減への取り組みも工夫していく。</p>	

年度目標	進捗状況
<div>【その他】</div> <div>学校の年度目標</div> <div>○小中一貫校大池学園として、ユネスコスクールの申請に向けて、多文化共生教育、平和教育、環境教育について小学校と連携し、教育課程を整備する。</div> <div> 小中一貫校としてユネスコスクール認定申請を文科省に提出した。</div>	A
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<div>取組内容⑬【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</div> <div>小中一貫校大池学園として、ユネスコスクールの申請に向けて、多文化共生教育、平和教育、環境教育について小学校と連携し、教育課程を整備する。</div> <div>-----</div> <div>指標</div> <div>毎月 1 回ユネスコ会議を開催し、申請に向けて、ユネスコ憲章を意識した教育内容を整備する。</div>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
⑬ 管理職、コーディネーター、など担当ごとに毎月一回以上ユネスコ会議を開催し、申請に向けて、ユネスコ憲章を意識した教育内容を整備できた。	
次年度への改善点	
小学校での実践を引き継ぎ、ユネスコの精神を児童生徒が共有できる取り組みを進めていく。そのため、小中一貫した教育課程カリキュラムの構築を目指し、出前授業・行事・部活動など効果が期待できる取り組みを積極的に実施していく。	